

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、今までの理念を見直し、住み慣れた場所で楽しく生活できるよう職員間で共有し実践につなげている。朝の引継ぎ時、理念を復唱し意識づけをしている。	社内報に理念の掲載がされており、また、毎朝の朝礼時に理念の復唱を行っています。理念の内容に関してもご利用者からの意見を参考にして考えています。	パンフレットへ理念の掲載と事業所の思いをもう少し入れたほうが気持ちが良い伝わるのではないのでしょうか。経営理念について今後、具体的な行動を期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営会議で地域交流をお願いしているが、中々受け入れられてもらえない。GHを知ってもらうために地域向けのGH新聞を作り、地域に配布することになった。	区長も区内の業務で多忙であり、また、GHの理解も地域にはなかなか受け入れられてもらえない様子です。理解を深めるため毎月5日にGH新聞を作り地域に回覧しています。	地域とより一層の連携をとり地域とのつながりを大切にしてほしいです。運営推進会議での決定事項、検討事項等もGH新聞で回覧し、地域の方の理解を深める方法とされることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市から、地域に助言をしてもらっているが、「株式会社」という点から、理解されにくい。12月より地域新聞を活用しホームの行事に参加していただくよう呼びかけをしていく。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議の開催時間を変更した。時間に余裕が出来た為市職員から助言を受けれるようになった。 運営会議の結果を職員に報告し、話し合っている。	管理者、区長、民生委員、ご家族代表、職員代表の参加により会議を行っています。できるだけ多くの方が参加できるように開始時間を変更したりと工夫をしています。会議の内容は職員の定例会議の場で共有しています。	運営推進会議での決定事項、検討事項等もGH新聞に掲載し、より地域の方へ情報を発信されることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者の相談や困難事例等、助言をいただいている。	困難事例があるとき、連絡・相談をしました。	市の職員との連携の取り方が決まっていません。日頃から相談し合える環境づくりを期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていない方向であり、別の対応を常に考え対応している。	現在は身体拘束を行っていません。	今後、全職員が身体拘束をしないケアについて理解できるように、すすんで研修会の実施・参加を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加し、定例会などで他の職員にも報告し、話し合いの機会を設けている。	研修会で学んだことを職員の定例会で報告し実践しています。	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会が少なかったため、今後の研修会への参加と実践を期待します。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している方がいない。職場では学ぶ機会がないが、今後研修に参加できるようにしたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読み合わせを行ないながら説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホール入り口に意見箱を設置している。面会時に入居者様の様子を伝えたり、ご家族様の意見・要望等を聞く機会がある。	意見箱についてはあまり活用されてはいますが、ご家族には日頃から意見を聞くようにしています。また、バーベキュー、もちつき大会時のご家族の参加率は高く、その際にもご家族の意見、要望を聞くようにしています。	ご家族アンケートの実施を定期的に行い、ご家族からの意見を聞き、反映できるしくみ作りを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の報告は、毎月の定例会議で職員に報告し、意見を聞いている。運営者にも会議の報告をしている。	職員へは会議前に資料を渡し、事前にその内容の確認と問題点の検討を促し、会議での意見や提案ができるように工夫しています。	定例会議での職員からの意見・提案について、その結果の確認ができていないことがあります。今後の質の向上のためにも最後まで検討内容について追尾し、今後に役立てることを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃コミュニケーションを取り、ミーティング等で意見を聞くようにしている。意見、要望は上につなげるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整をしながら出来るだけ研修に参加出来る様にしている。(休みを利用し研修に参加し、自己研鑽をしている者もいる)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を希望するが、なかなか実現できない。他グループホームとの交流を持つ機会を作りたい。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に試し入居を試みて、本人の不安を軽減するように努めている。本人の生活歴を把握し、不安なく生活出来るように声掛けしながら対応していく。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や悩みを話しやすい環境を作り、信頼関係が持てるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、満床で入居できない時、他のサービスの利用等の助言を行なった。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に畑に行き、季節の野菜を収穫し職員が分からない事を人生の先輩として教えていただきながら調理・作業をしている。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加出来る様、事前に連絡し家族との時間を持てるようにしている。必要品はこちらで用意するのではなく、家族に連絡し持参していただき会う機会を作っている。	行事前には事前にご家族へ連絡し、参加を促しており、ご家族の参加率も高いです。遠方より来ていただけるご家族もあり、非常に協力的です。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、家族で外出・外泊できるよう呼びかけている。	ご利用者同士の関係や相性の良し悪しがあるため食事の席順など考慮にいれています。ご近所や、元同僚の面会などもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで同じ作業をしたり、畑で収穫作業をすることにより、お互いに関わりが持っている。又職員が間に入り、気持ちよく過ごせるよう工夫している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の思いをくみ取り支援している。サービス利用が終了した方へは他施設に面会に行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけし把握に努めている。問題があれば申し送り時や定例会議で検討、改善をしている。	日常の会話の中で、思いや意向を聞けるように努めています。これらの日々の情報はファイリングされており、ご本人の希望が優先できるように定例会議で検討しています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族の面会時に情報を得ている。	入居時にもご本人やご家族からこれまでの暮らしぶりを聞き、記録として残されておりご利用者の理解へとつなげています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の思いに合った生活に心掛け支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回介護計画の評価を行い、6ヶ月ごとに見直しを行なっている。プラン変更時は定例会議にて検討している。	6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っており、計画担当者・担当職員・ご家族、必要時には主治医の協力を得てケアプラン会議を行っています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入と申し送りノートで情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態に合わせ、柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーに買い物に出かけたり、地域の行事に参加する機会を設けている。 外出時や行事等のボランティアを呼びかけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診又は往診をして頂いている。異状のあった時状態を話し指示を仰いでいる。	入居前からのかかりつけ医を継続しています。その受診内容についてはご家族にも連絡しています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と、気軽に相談できる関係になっている。看護師と主治医のとの連携も整い情報指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、様子を見に行き状態を聞いている。退院時は医療機関に連絡を取り退院後の受け入れに備えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事例は無いが入居時家族に終末期についての意思確認を行っている。	支援事例は今まではありませんでした。入居時にご家族の意向は確認しており、今後必ずあることなので時期をみて、ご家族、職員の意向を確認していきます。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法を消防士を招いて研修会を実施している。	年に1回救急法の講習を行っています。全職員が受講できるように3日間に分け実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年入居者様を含め避難訓練を行なっている。非常食の確認を行っている。	防災化係を1名置き、年間の災害訓練計画を作成し実施しています。	町内の避難場所の確認、非常食の2～3日分の確保、被災後の心のケアの考慮し職員間での知識の習得を行い身に付けておくことなどを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応や言葉掛けを行なっている。	トイレの誘導時は大きい声を出さないように配慮しています。部屋の入り口の戸は開いています。防炎性のカーテン(のれん)を使用し中が見えないようにしています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日やイベントの時には、やりたい事や食べたい物など本人の希望を聞き、取り入れるようにしている。また、日々の活動や食事メニューにも反映するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れ以外では、特別なプログラムは用意せず、畑仕事や散歩など個々の入居者に合わせた支援を行なっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に確認しながら、服を選んだり身だしなみを整えるようにしている。散髪も本人の意思を尊重し、理髪店に来てもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付けを一緒に行い、同じテーブルで一緒に食べるようにしている。また自家菜園の野菜や季節を感じる食材を多く取り入れるようにしている。	食事の準備は一緒に手伝ってもらうように心がけており、食事作りは職員が交代で担当しています。できるだけご利用者が食べたいものを作り、また誕生日には、その日食べたいものを聞き、作るようにしています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記入したり、定期的に水分を取っていただけるように声掛けを行ない、必要ならば水分量も記入している。また、定期的にメニューを栄養士に見ていただき指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行なっていただけるよう声掛けをしている。また、出来ない方には職員が介助し行なっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後、就寝前には定期的に声掛けや誘導をし、それ以外の方は本人の意思に合わせ排泄介助を行なっている。	食事前後に排便の確認を行っています。現在はおむつを使用しているご利用者はいません。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	係りつけの医師に相談し、下剤等を処方してもらっている。牛乳・ヨーグルト等も定期的に取りするようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入居者の希望を確認しながら入浴をしている。	入浴時間は午後2時から午後5時位が多く、職員が交代で入浴支援を行っています。浴室は木目調になっており落ち着きやすくなっています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えている。夜間眠れない人や早く起きる人には個別に対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストを作成し、薬が確認出来るように個々のケースに綴ってある。症状の変化が見られた際は記録に記入している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴より、畑仕事や調理作業など日々の張り合いとし行い、またゴミ箱作りや雑巾縫いなど生活の中の役割として取り組まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月一回程度、季節に合った外出を行っている。また、季節感を感じられるようにドライブに行ったり、天気の良い日には外でお茶を飲んだり、食事をしたり、畑仕事を手伝っていただくようにしている。	体調が悪い人を除き全員で外出しています。外食時のメニューもご利用者ご自身で選んでいます。天気が良い日は敷地内を15分程度散歩しています。畑も広く色々な野菜を作っています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食時支払いが出来るように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の作成、家族に電話連絡できるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる方には居室掃除や共有のリビングの掃除をして頂いている。畑に咲いている花を摘んで花を生けたり生活感、季節感を味わっている。	リビングは広く清潔感があり1日中明るいです。折り紙で作った飾りなども多く全体的に落ち着いた雰囲気を感じます。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室入り口にのれんをかけプライバシーに気をつけている。気の合う人とお茶を飲んだり、作業やゲームを楽しんだり、居室で一人の時間を持てるよう支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や小物を置き、安心して過ごせるようにしている。	各部屋にトイレと洗面所が設置されており、使い慣れた家具も置いてあり居心地良く過ごしやすいなっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットや家具の位置など本人と相談し配置し、転倒等ないように安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		